

**函館市医療・介護連携推進協議会
多職種連携研修作業部会 第4回会議**

日時：平成29年1月18日（水）19：00～

場所：総合保健センター 2階 健康教育室

【次 第】

1 開 会

2 議 事

- (1) 多職種連携研修会の詳細および役割分担について
- (2) 次年度以降の研修テーマについて
- (3) 研修情報の一元化と提供の方法について
- (4) 「函館市在宅医療・介護連携マップ」の活用について

3 その他

- (1) 次回の部会日程について

4 閉 会

【配付資料】

- 1 議事項目
- 2 詳細資料
- 3 「今後実施して欲しい研修内容」（H28.2開催した研修会での意見のまとめ）
- 4 多職種研修会に関する部会メンバーへのアンケート
- 5 研修情報の一元化と提供の方法について
- 6 「函館市在宅医療・介護連携マップ」イメージ図

**函館市医療・介護連携推進協議会 多職種連携研修作業部会
第4回会議 出席者名簿**

※★…部会長および副部会長 ○…幹事

(敬称略)

分野	所属団体	氏名	勤務先等
医療	公益社団法人 函館市医師会	○高柳 靖	函館市医療・介護連携支援センター 準備室
	一般社団法人 函館歯科医師会	岩井 祐司	戸井歯科診療所
	一般社団法人 函館薬剤師会	水越 英通	(株)はこだて調剤薬局(昭和店)
	公益社団法人 北海道看護協会 道南南支部	北村 和宏	社会医療法人 高橋病院
	道南在宅ケア研究会	佐藤 静	函館市医療・介護連携支援センター 準備室
	函館地域医療連携実務者協議会	船山 俊介	社会福祉法人函館厚生院 函館五稜郭病院 医療総合サービスセンター
	一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会 南支部	★部会長 酒本 清一 ※欠席	独立行政法人国立病院機構 函館病院 相談支援室
	一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会 南支部	山村 哲	医療法人立青会 なるかわ病院
	北海道柔道整復師会函館ブロック	齋藤 久剛	整骨院さいと
	函館鍼灸マッサージ師連携会	益井 基	益井東洋治療院
介護	函館市居宅介護支援事業所連絡協議会	★副部会長 中村 清秋	居宅介護支援事業所 ひなたぼっこ
	函館市地域包括支援センター連絡協議会	京谷 佳子 ※欠席	函館市地域包括支援センター ゆのかわ
	函館市訪問リハビリテーション連絡協議会	寺田 昌弘 ※欠席	社会医療法人仁生会 西堀病院
	道南訪問看護ステーション連絡協議会	高畑 智子	訪問看護ステーション オハナ
	道南地区老人福祉施設協議会	齋藤 禎史	特別養護老人ホーム シンフォニー

議事項目

(1) 多職種連携研修会の詳細や役割分担について

ア 詳細資料について 資料2 参照

内訳：	・ 研修概要書	1 p
	・ タイムテーブル	2 p
	・ スタッフ分担表	3 p
	・ 進行読み上げ原稿（司会・事務連絡用）	5 p
	・ ～グループワークに関するお願い～（説明用）	8 p
	・ グループワークで使用する具体的な事例	10 p
	・ 同 模造紙元図	11 p
	・ 次第	12 p
	・ アンケート（研修会終了後）	13 p

イ 当日の作業部会メンバーの役割分担について

- ・ 「スタッフ分担表」に基づき各役割の動きや流れの確認
～ 資料2の3ページ（スタッフ分担表）参照

ウ ファシリテーター会議の開催について

- ・ 日 時：平成29年1月26日（木） 18：30～
- ・ 場 所：函館市医師会病院5階講堂
- ・ 参集者：「スタッフ分担表」（資料2：3p）参照

エ 出席者名簿等について

- ・ 参加者の取りまとめ状況について

(2) 次年度以降の研修テーマについて

ア これまでの研修テーマについて

- ・ 平成27年度 第1回研修会テーマ ～ 入退院支援
- ・ 平成28年度 第2回研修会テーマ ～ 連携

→ ① 「今後実施して欲しい研修内容」

（資料3参照：※第1回研修会のグループワークによる資料）

② 多職種研修会に関するアンケート

（資料4参照：※部会長から作業部会各メンバーに実施したアンケート結果）

上記①、②を反映させたものとして、研修計画（案）を策定

イ 平成29年度研修計画について（案）

テーマ：「相互理解」

（視点）

医療と介護をシームレスに提供するためには、医療や介護の関係多職種が日頃からお互いに知り合っている顔の見える関係が重要である。

多職種が相互の機能の理解や役割分担を通じ連携するためには、どのような取組を行うことが必要と考えられるか。

また、その際、異なる職種間での相互理解を促進するためにはどのような手立てが有効と考えられるか。

① 医療・介護関係者に対する研修

(ア) 多職種連携研修

- ・ 各団体の協力を得ながら、関係多職種が幅広く参加する比較的大規模な研修。複数の会場での同時開催も検討
- ・ 「顔の見える関係」作りを目的として研修終了後に懇親会を開催
- ・ 内容に関しては、講義形式、参加型など要検討

(イ) 医療関係者への介護に関する研修，介護関係者への医療に関する研修

- ・ 職種を絞り，50人程度の比較的小規模な研修。複数回の実施検討

<医療関係者に対する研修の例>

- ・ 介護保険制度の概要，介護保険で提供されるサービスの種類と内容，ケアマネジャー等の業務，地域包括ケアシステムを推進するための取組 など

<介護関係者に対する研修の例>

- ・ 各医療機関が担う機能（病院機能など）の相違などへの理解 など

(ウ) センターの役割の周知・啓発

- ・ 上記(ア)または(イ)と組み合わせた実施を検討
- ・ 函館市における医療と介護の連携の現状と問題意識の解説
- ・ 連携におけるセンターの役割の解説
- ・ センター職員による説明（出前講座形式等での対応）

② 市民への普及啓発

- ・ 地域住民向けの，在宅医療と介護の関わりに関する解説や講演
- ・ センター職員による説明（出前講座形式等での対応）

論点 平成29年度研修計画（案）について

(3) 研修情報の一元化と提供の方法について

ア 研修情報の収集と提供の流れについて

- ・ 毎月末に、センターから各団体（事務局，各団体の研修担当者等）に対して，研修開催情報を照会し，センターのホームページへの掲載希望の確認を行います。
（この仕組みが一定程度浸透した後には，各団体から自主的に掲載希望を申し出ていただくこととします。）
- ・ 掲載希望の手続きにあたっては，所定の書式（資料5参照）を作成していただくほか，各団体が作成するチラシなどを提出していただくこととします。
- ・ センターのホームページに，各団体から収集した研修開催情報を一元化して掲載し，情報提供します。

(4) 「函館市在宅医療・介護連携マップ」の活用について

- ・ イメージ図 ～ 資料6参照
- ・ 公開時期：平成29年2月1日を予定
- ・ 公開方法：函館市医療・介護連携支援センターのホームページ（※）上に公開 ※ アドレス（予定）<http://hakodate-ikr.jp>

別紙 研修概要書

名 称	第2回 函館市医療・介護連携多職種研修会
目 的	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年4月から稼働する「函館市医療・介護連携支援センター」の機能と役割を理解する。 医療・介護の現場の実例を通じて、双方の立場や悩み、または負担となっていることを関係多職種間で共通認識し、切れ目のない医療・介護が必要な局面での、適切な連携のあり方について協議する。 関係多職種間の「顔の見える関係づくり」や率直な意見交換の場として、研修会終了後に懇親会を開催する。
共 催	函館市（函館市医療・介護連携推進協議会） 函館市医師会（函館市医療・介護連携支援センター準備室）
日 程	平成29年2月11日（土） 14:00～17:00（予定） ※ 研修終了後、職種を超えた交流を目的とした懇親会を予定
会 場	ホテル函館ロイヤル （函館市大森町16-9 電話26-8181）
司 会	道南訪問看護ステーション連絡協議会 会長 高畑 智子
テ ー マ	「切れ目がある医療・介護連携に焦点をあてる」
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 講演「函館市医療・介護連携支援センターについて」 演者 函館市医療・介護連携支援センター準備室 医療福祉相談係長 高柳 靖 事例「シームレス化できなかった事例」 発表 函館脳神経外科病院 医療ソーシャルワーカー 阿部 綾子 グループワーク（最大30テーブル／8人掛け） ① 同職種グループ「専門職の視点で見える問題点と適切な連携のあり方」 ② 多職種グループ「多職種の視点で見える問題点と適切な連携のあり方」
参加対象	市内の医療・介護関係者
参加人数	約250名（見込）
参加費用	無料（懇親会参加費用は別途徴収 ※金額は3,500円程度）
関係者参考	<p>【函館市医療・介護連携推進協議会 多職種連携研修作業部会】 北海道医療ソーシャルワーカー協会 酒本 清一 部会長 函館市居宅介護支援事業所連絡協議会 中村 清秋 副部会長 函館歯科医師会 岩井 祐司 函館薬剤師会 水越 英通 北海道看護協会 北村 和宏 道南在宅ケア研究会 佐藤 静 函館地域医療連携実務者協議会 船山 俊介 北海道柔道整復師会 齋藤 久剛 函館鍼灸マッサージ師連携会 益井 基 函館市地域包括支援センター連絡協議会 京谷 佳子 函館市訪問リハビリテーション連絡協議会 寺田 昌弘 道南訪問看護ステーション連絡協議会 高畑 智子 道南地区老人福祉施設協議会 齋藤 禎史</p> <p>【函館市医療・介護連携支援センター準備室】 センター長 檜木 賢三、伊藤 正純、高柳 靖、佐藤 静、長谷川 奈生子、川村 芙美子</p>
備 考	アンケート実施

タイムテーブル

平成29年2月11日（土） 午後2時～午後5時（開場 午後1時30分）

時刻	タイトル	主な講師	分類	時間	司会
13:30	開場	司会		—	司会…高畑 智子 (サブ司会…京谷 佳子 ※事務連絡)
14:00	開会挨拶／趣旨説明	司会 本間会長	他	5分	
14:05	講演	高柳 講師	講義	30分	
14:35	事例説明／グループワーク進め方説明	MSW 司会	説明	10分	
14:45	グループワーク① 「同職種」	司会	演習	50分	
15:35	休憩，席移動	司会	説明	10分	
15:45	グループワーク② 「多職種」	司会	演習	50分	
16:35	グループワーク発表	司会	演習	20分	
16:55	総評（Dr）	司会	演習	5分	
17:00	閉会挨拶／アンケート依頼／懇親会案内	司会 主催代表	他	5分	
17:05	アンケート記入，会場移動（懇親会出席者）	—	他	—	
小計				185分	
17:30	懇親会			90分	
19:00	（終了）				
合計				275分	

スタッフ分担表

(①=1名, ②=2名, ③=3名となります)

時刻	タイトル	酒本	中村	高畑	京谷	高柳	訪看②	訪リハ②	イカ②	地連①	居宅①	M S W①	老施協②	柔道②	函鍼連②	センター③	
事前準備	参加者名簿、GW席順、名札作成、資料作成、模造紙作成					○											○
	ファシリテーター会議 (1/26)	○	○	○	○	○											○
11:30	集合	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	会場に荷物搬入					○											○
	机・椅子配置確認	○				○											○
	受付設営	○				○	○	○	○	○	○	○					○
	場内資料・名札準備	○											○	○	○		○
	機材設置・音響確認	○		○	○	○											○
13:00	ファシリテーター到着																
	ファシリテーター打ち合わせ	○	○	○	○	○											○
13:15	場外誘導開始												○	○	○		
	受付開始	○					○	○	○	○	○	○					
	来場者出迎え	○	○														○
14:00	開会・挨拶		○	○	○												
	資料確認・落丁時配付			○									○	○	○		○
	司会			○													
	サブ司会 (事務連絡)				○												
	質疑等マイク対応												○	○	○		
	写真												○	○	○		○
	研修会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	閉会・挨拶		○	○													
17:00	研修会終了																
	懇親会参加者を誘導	○	○	○	○	○											○
	アンケート・名札回収・受講者見送り						○	○	○	○	○	○					○
	後片付け	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	(研修会終了)																
17:30	懇親会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	司会				○												
	開会挨拶																
	懇談																
	閉会挨拶																
19:00	(懇親会終了)																

第2回 函館市医療・介護連携多職種研修会（進行読み上げ原稿）

（司会 高畑 智子 ）※ 事務連絡（サブ司会 京谷 佳子 ）

時間	内容	読み原稿
13:45 開会 15分前	事務 連絡	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会は14時から開始いたします。開会に先立ち、皆さまにお願いを申し上げます。 ・研修の妨げにならないように、携帯電話は、マナーモードにするか、電源をお切り頂くなど、音の出ない状態にして頂くよう、お願いいたします。 ・お車でお越しの方に申し上げます。ホテルの駐車場をご利用の方の駐車券の認証は、1Fフロントまたはエレベーター付近にある認証機をご利用ください。 ・上着につきましては、会場内にハンガーを用意しておりますので、各自ご利用いただきますようお願いいたします。 ・本日の資料につきましては、机の上に配布（別紙資料一覧）されておりますので、ご確認願います。 ・グループワークの際、お互いの名前や職種が良くわかるよう、名札のひもを短めにして、机の上に名前が出るように工夫して頂きたいと思います。
13:58 開会 1～3分前	事務 連絡	<ul style="list-style-type: none"> ・まもなく14時となりますので、定刻どおり研修会を開催いたしますので、お席についてお待ちいただきますよう、お願いいたします。 ・なお、繰り返しになりますが、携帯電話は、マナーモードにするか、電源をお切り頂くなど、音の出ない状態にして頂くよう、お願いいたします。
14:00	司会	<ul style="list-style-type: none"> ・ただいまから、「第2回 函館市医療・介護連携多職種研修会」を開催いたします。 ・本日司会を務めさせていただきます、道南訪問看護ステーション連絡協議会 会長 高畑 智子です。 ・何分不慣れではございますが、円滑な進行のため、ご協力をお願いいたします。 ・それでは、開会に先立ちまして、公益社団法人 函館市医師会 会長 本間 哲 からご挨拶を申し上げます。
	挨拶	（函館市医師会 会長 本間 哲）
	司会	・ありがとうございました。
14:03	司会	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、これから研修会の方を進めてまいります。 ・まず最初に、私の方から、本日の研修の流れについて、簡単にご説明申し上げます。

		<ul style="list-style-type: none"> ・本日の研修は、テーマを「切れ目がある医療・介護連携に焦点をあてる」としまして、前半の講演と後半のグループワークの2部構成としております。 ・前半のセッションは、「函館市医療・介護連携支援センターについて」と題しまして同センターの役割や機能について講演を頂きます。 ・後半のセッションでは、「シームレス化できなかった事例」について同職種、多職種に分けて2回グループワークを行います。 ・途中休憩時間を利用頂きまして、席の移動をお願い申し上げます。 ・2回目のグループワークのテーブルの席は、受付の際にお配りした席順表のお席にお座りいただきます。 ・なお、あらかじめ、各テーブルのファシリテーター、進行役の方を設定させて頂きましたので、ご承知置きください。 ・それでは、前半のセッションといたしまして、函館市医療・介護連携支援センター 医療福祉相談係長 高柳より講演を申し上げます。高柳係長、よろしくお願いいたします。
14:05 (30分)	講演	<p>～講演 演者：高柳 靖</p>
14:35 (15分)	司会	高柳係長、ありがとうございました。
(5分)	司会	<ul style="list-style-type: none"> ・それではこれからグループワークに移りたいと思います。 ・本日は1つの事例のもと2回のグループワークを行います。まず、事例について説明をさせて頂きます。その後、グループワークの説明をしていきたいと思います。 それでは、事例紹介よろしくお願いいたします。
(10分)	MSW	<p>～事例紹介 発表：函館脳神経外科病院 医療ソーシャルワーカー 阿部 綾子様</p>
14:45	司会	<p>ありがとうございます。 *（別紙）「グループワークに関するお願い」<u>グループワーク①</u>までは、よろしくお願いいたします。</p>
	演習	<p>グループワーク① 同職種グループ「専門職の視点で見える問題点と適切な連携のあり方」</p>
15:35	事務連絡	<ul style="list-style-type: none"> ・まもなく、1回目のグループワークを終了いたします。この後、10分の休憩をとりまして、2回目の多職種でのグループワークとなりますので、この休憩時間を利用して、席の移動をよろしくお願い申し上げます。 ・次の開始時刻は、15:45となりますので、それまでにお席

		<p>に着席をお願いいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・席の移動に際しては、お忘れ物の無いようご注意願います。
15:43	事務連絡	<ul style="list-style-type: none"> ・まもなく、2回目のグループワークを再開いたしますので、着席してお待ち願います。
15:45	司会	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、2回目のグループワークを開始いたします。 * (別紙) 「グループワークに関するお願い」 <u>グループワーク②</u>からは、お願いいたします。
	演習	<p>グループワーク②</p> <p>多職種グループ「多職種の視点で見える問題点と適切な連携のあり方」</p>
16:35 (20分)	演習	グループワーク発表
16:55 (5分)	司会	<ul style="list-style-type: none"> ・みなさん、グループワークお疲れ様でした。 ・最後に、本日ご出席いただきました〇〇先生から、総評を頂きたいと思います。 ・〇〇先生、お願いします。
	演習	総評
	司会	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇先生、総評をありがとうございました。
17:00	司会	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは最後に、函館市居宅介護支援事業所連絡協議会 会長であり、本日の研修会を主催した函館市医療・介護連携推進協議会の多職種連携研修作業部会の副会長であります、中村清秋より閉会のご挨拶をさせていただきます。
	会長	〇〇
	司会	<ul style="list-style-type: none"> ・以上を持ちまして、「第2回 函館市医療・介護連携推多職種研修会」を閉会と致します。長時間に渡り、お疲れ様でございました。 ・なお、皆様にお配りしておりましたアンケートにつきましては、ご記入の上、受付のボックスか、近くのスタッフにお渡しください。 ・また、この後懇親会を準備しております。懇親会の会場ですが、2階ゴールデンホールとなっております。 ・懇親会は18:00から開始いたしますので、それまでにお集まりください。 ・懇親会に参加される方は、名札をそのまま着用して、会場へ移動して頂きたいと思っておりますので、ご協力お願いいたします。 ・それでは、研修会を終了とさせていただきます。ありがとうございました。
17:05	他	アンケート記入, 会場移動 (懇親会出席者)
17:30	他	懇親会

～グループワークに関するお願い～

今回の研修会は、たくさんの人数と職種が集まっております。グループワークが円滑に進み、皆様にとって有益な研修会となるよう、いくつかお願いをさせていただきます。

まず最初に本来であればグループワーク開始前に自己紹介や役割分担の時間を設けるところであります。限られた時間の中でできるだけ多くディスカッションの時間をとって頂くために割愛いたします。個々に発言するときに所属と氏名を伝える形で自己紹介として頂ければと思います。

また、役割に関しましては受付でお渡しいたしました、名簿にグループワーク①②の役割も記載させて頂いております。こちらは事務局サイドでランダムに決めさせて頂いております。こちら時間短縮のため、役割が当たっている方はご協力頂けますようお願いいたします。

【グループワーク① ～同職種でのディスカッション】

- 1) 初めに 10 分間の個人ワークを行います。今回の事例から浮かび上がる、問題点について、お手元の付せん紙に記載して下さい。記載については、模造紙に書かれている例を参考にして下さい。
- 2) 個人ワークが終了したら、残りの 40 分で話し合いの時間となります。まずは、それぞれが付せん紙に記載した問題点を、模造紙の「①問題点」の欄に貼り付けてください。
- 3) 次に付せん紙の内容に対して、それぞれの適切な連携のあり方を話しあって頂き、模造紙に黒色のマジックで書記の方が「②適切な連携のあり方」に記載して下さい。ここまででグループワーク①が終了となります。
- 4) グループ内で話し合われた内容を、次のグループワークで報告しあいますので、各自内容を記録・記憶しておいて下さい。
尚、職種によっては事例の中に登場しない職種の方もいらっしゃるかと思います。その場合、なかなかイメージが付きにくいこともあるかと思っておりますので、難しく考えず、単純に素朴な疑問でも構いませんので積極的に出し合ってください。

【グループワーク② ～多職種でのディスカッション】

- 1) 初めの 10 分間で、それぞれのグループで話し合った内容を共有する時間とします。司会者がグループのテーブルに置かれている模造紙の内容を見ながら、グループワーク①で話し合った内容を報告し、グループワーク②のメンバーで共有して下さい。また、①問題点について追加事項があれば、模造紙の「①問題点」の欄に、赤色のマジックで書記の方が記載して下さい。

- 2) 残りの 40 分で多職種の視点で見える適切な連携のあり方について話し合ってください。追加事項があれば、模造紙の「②適切な連携のあり方」の欄に、赤色のマジックで書記の方が記載して下さい。

※自己紹介・役割分担に関しましては、グループワーク①と同様にお願いします。

《 患者情報 》

患者：Aさん 80歳代前半 女性
診断名：誤嚥性肺炎
家族構成：娘一人（市内在住）
既往歴：甲状腺機能低下症・脳梗塞後遺症
経過：サービス付き高齢者住宅Bに入居中 要介護3 担当ケアマネ有

《 入院から退院後の経過 》

- 4月20日 前日より微熱があり、ヘルパー付き添いでC医院を受診し風邪くすりの処方を受ける。内服開始後、バイタルも安定したため施設で経過をみていたが、日に日に元気がなくなり食欲も低下。
- 4月27日 早朝、39度台の発熱と意識レベルの低下がみられ救急要請。2次輪番救急当番のD病院へ搬送、誤嚥性肺炎の診断で入院となる。その後、肺炎症状は軽快したが、廃用性症候群によるADLの低下が著明のため、リハビリ目的で転院の運びとなる。
- 6月10日 D病院からE病院へ転院。リハビリは順調に進み、ADLも肺炎発症前のレベルまで回復したため退院許可がおりる。しかし、もともと生活の場としていたサービス付き高齢者住宅Bでは、以前よりADLが低下しており夜間帯の対応も含め受入れ困難と断られる。
- 8月30日 E病院を退院し、在宅系施設Fへ入所となり、かかりつけ医は施設Fの協力病院でもあるGクリニックとなった。Gクリニックへの受診予定は9月5日の予定であったが、9月2日の時点で残薬が不足することが判明。在宅系施設FはGクリニックへ連絡し受診日の変更を依頼しようとしたが、9月2日～9月4日まで休診で連絡がとれなかった。最後に退院したE病院へ処方の追加の依頼をしたが、Gクリニックへ診療情報提供をしているとの理由で断られる。
- 9月3日 予約なしでGクリニック宛ての診療情報提供を持参してD病院を受診。D病院を受診。D病院でも対応に苦慮したがMSW介入でひと段落する。

①問題点

②適切な連携のあり方

第2回 函館市医療・介護連携多職種研修会

日 時：平成29年2月11日（土）

14：00～17：00

会 場：ホテル函館ロイヤル 3階 ロイヤルホール

13：30 開 場（受付開始）

14：00 開 会

挨 拶

公益社団法人函館市医師会 会長 本間 哲

14：05 講演

テーマ「函館市医療・介護連携支援センターについて」

函館市医療・介護連携支援センター準備室

医療福祉相談係長

高柳 靖

14：45 事例発表

テーマ「シームレス化できなかった事例」

医療法人社団函館脳神経外科病院

医療ソーシャルワーカー

阿部 綾子

グループワーク①

「専門職の視点で見える問題点と適切な連携のあり方」

（15：35 休憩）

15：45 グループワーク②

「多職種の視点で見える問題点と適切な連携のあり方」

17：00 閉 会

挨 拶

函館市居宅介護支援事業所連絡協議会 会長 中村 清秋

第2回 函館市医療・介護連携多職種研修会 アンケート

本日はお忙しい中ご参加いただき、誠にありがとうございます。

今後の参考とさせていただくべく、アンケートへのご協力をお願いいたします。

1. 開催日時(土曜日の午後)はいかがですか？

- 良い どちらともいえない 良くない
(ご意見等ございましたらお書き下さい)

2. 研修会を受講し、ご自身の理解は深まりましたか？

- 深まった どちらともいえない あまり深まらなかった
(ご意見等ございましたらお書き下さい)

3. 今後もこのような研修会を続けてほしいですか？

- 続けてほしい どちらともいえない 続けなくてもよい
(ご意見等ございましたらお書き下さい)

4. 所属機関をお聞かせ下さい。

- 病院 診療所 薬局 居宅介護支援事業所 地域包括支援センター
 介護施設 訪問リハビリステーション 訪問看護ステーション その他
(その他の方は、記入をお願いいたします)

5. 職種をお聞かせ下さい。

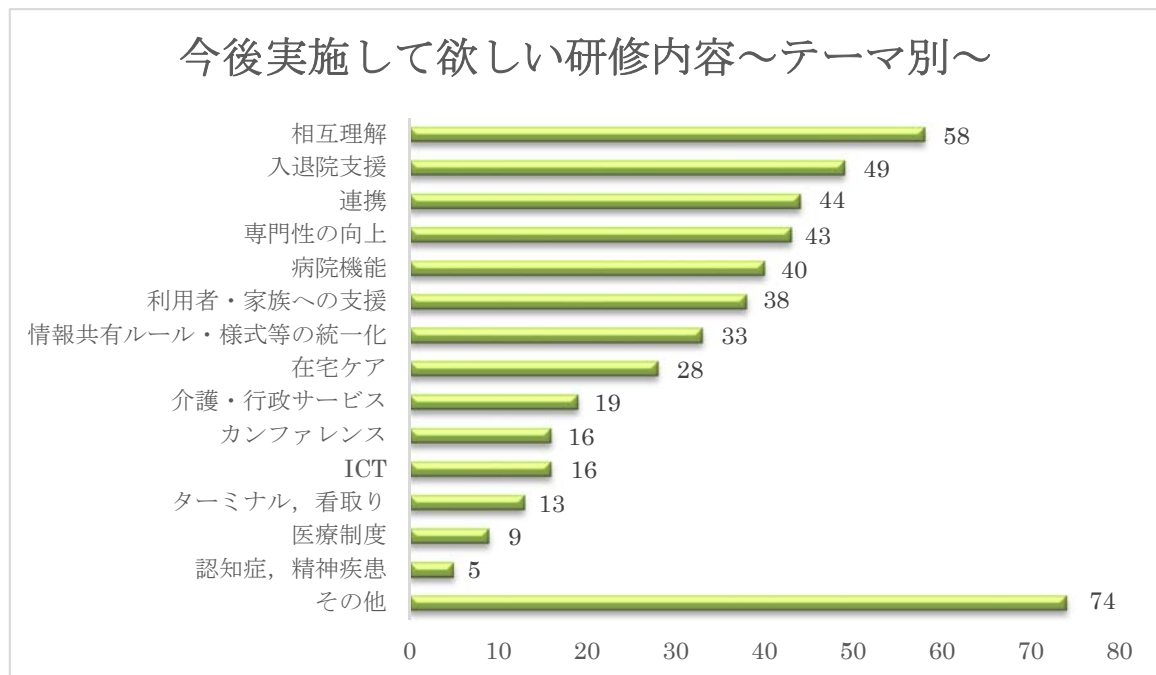
- 医師 歯科医師 薬剤師 保健師 看護師 理学療法士
 作業療法士 言語聴覚士 柔道整復師 鍼灸師・マッサージ師
 介護支援専門員 相談員 その他
(その他の方は、記入をお願いいたします)

6. その他、ご意見等ありましたらお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

グループワーク②「具体的な研修内容について」

(意見総数 485 件)



○おもな意見

区分	内容
相互理解	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの専門職団体が交流できる研修 職種内容を理解できる研修
入退院支援	<ul style="list-style-type: none"> 退院支援についての事例発表会・事例検討会 退院支援の仕組みを統一化している他都市の取り組みを学ぶ会
連携	<ul style="list-style-type: none"> 医療・介護連携が成功している他都市の事例・取り組みを学ぶ会
専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> 各職種で必要な専門用語の研修会
病院機能	<ul style="list-style-type: none"> 市内の病院機能, システムがわかる研修会
利用者・家族への支援	<ul style="list-style-type: none"> 家族支援についての勉強会 利用者や家族の生の声を聞く会
情報共有ルール・様式等の統一化	<ul style="list-style-type: none"> 必要な情報は何か協議する会 連携できる共通のツール等を用いた研修
在宅ケア	<ul style="list-style-type: none"> 在宅医療を行っている医師による講演会
介護・行政サービス	<ul style="list-style-type: none"> 介護保険など各種制度について
カンファレンス	<ul style="list-style-type: none"> 退院前カンファレンスの実践・研修
ICT	<ul style="list-style-type: none"> ICTの利活用について (先進地の事例研究)
ターミナル, 看取り	<ul style="list-style-type: none"> 退院支援者の力量差が大きい
医療制度	<ul style="list-style-type: none"> 病院の仕組みや医療制度の研修
認知症, 精神疾患	<ul style="list-style-type: none"> 認知症, 精神疾患のある方への関わりについて
その他	<ul style="list-style-type: none"> 著名な講師による講演会 市民参加型の研修

多職種研修会に関するアンケート

※該当する項目を■または☑に書き換えて下さい。

1. 来年度の研修会の形式は、どのような形式がよいですか。

- 講演会形式 (1名)
 グループワーク形式 (3名)
 どちらも (3名)

2. 規模はどれくらいがよいですか。

- 50名以下
 50～100名程度 (2名)
 100～150名程度 (2名)
 150～200名程度
 200名以上 (4名)

3. この様な研修会を開催してほしい、といった内容がございましたら、以下に自由にご記載下さい。また、現在開催している研修会についての課題等もございましたら、合わせてご記載お願いいたします。

1) 研修内容に関する意見

*カッコ内は第1回研修会でのアンケート結果によるカテゴリー

(相互理解)

・相互理解を深めるためにも多職種の方がどのようなことができるのか？研修会

(連携)

・医療に特化した内容、介護に特化した内容ばかりでは参加者全員が情報を共有することは難しい。ここは参加者全員全てが平等になるように、別業種で多職種連携(のようなこと)をしている内容の講義→グループワークというのはいかがでしょう。例えば、建設関係(設計士・現場監督・大工等の連携)、貿易(日本人・外国人の連携)、サッカー(DFとMFの連携)等。多職種研修はあくまで函館市主催。参加の間口を広げる工夫は必要だと考えます。

・病院や施設で働く看護師や介護士は他法人他事業所の多職種と関わる機会が少なく、外との繋がりを持つことに対し消極的なスタッフが多い。このようなスタッフが多職種研修の必要性を感じたり、参加してよかったと思える内容にしなれば、「いつも同じ顔ぶれが集うパターン」に陥ってしまわないだろうか。函館市の連携を強化するために大切なのは、今まで参加しなかった職種を引き込むこと。その為に、研修内容は連携初心者も理解できるものでなければならないと思います。

(在宅ケア)

- ・予算的な問題もあるが、関東の悠翔会理事長の佐々木淳先生を講師として招き、講演会とGWをやってほしい。いろいろな方向から在宅医療を考えている方なので参考になるところも多いと思う。
- ・講演の後に症例検討会を行うのが良いと思う。

(病院機能、医療制度)

- ・医療介護連携がスムーズにいかないケースの中には、やはりネックになっているのが、患者ご家族の認識不足（分からなくても当然）を挙げることができます。未だに「なぜ前と違って病院に長く入院させてもらえないの?」「施設は何でこんなに費用が高くなったの?」って当たり前のように聞いてこられる方が、つい最近もいらっしゃいました。最終的には対応としては個別になってしまいますが、大まかにでも直近の病院施設事情をそれなりにわかって頂く努力も必要かと思えます。是非一般市民に向けた講座を開催して頂きたいと存じます。

2) 研修方法に関する意見

- ・市が主催の研修なので規模が大きくなるのは仕方ない。個人的には大小様々な研修が開催されるのが理想だが、難しいと思うので200名以上を選択。

・GWでの顔の見える研修は、今は元々ある研究会や協議会にお任せするのが良いと思う。

・座学ではなく参加型。場面をみて、みんなの気づき、発見を共有する。(映像、劇、シミュレーション等)

・当協会は会員の会費にて運営しており、予算の使い道が決められている。そのため、研修のアナウンス等は函館市医療・介護連携支援センターの研修予算で運営できないか。

ご協力ありがとうございました。

函館市医療・介護連携支援センター宛

(FAX 0138-43-1199)

(E-mail ikr-center@hakodate-ishikai-hp.jp)

研修予定掲載申し込み書

下記のフォーマットに記入の上、センター迄 FAX もしくはメールでお送りください。

研修名	
開催日	* 申し込み締切日～
時間	
場所	
定員	
問い合わせ先	主催団体名～ 担当者名～ 連絡先～
備考	参加料～ 対象者～ その他 (PR 等)

【団体名】

【記入者】

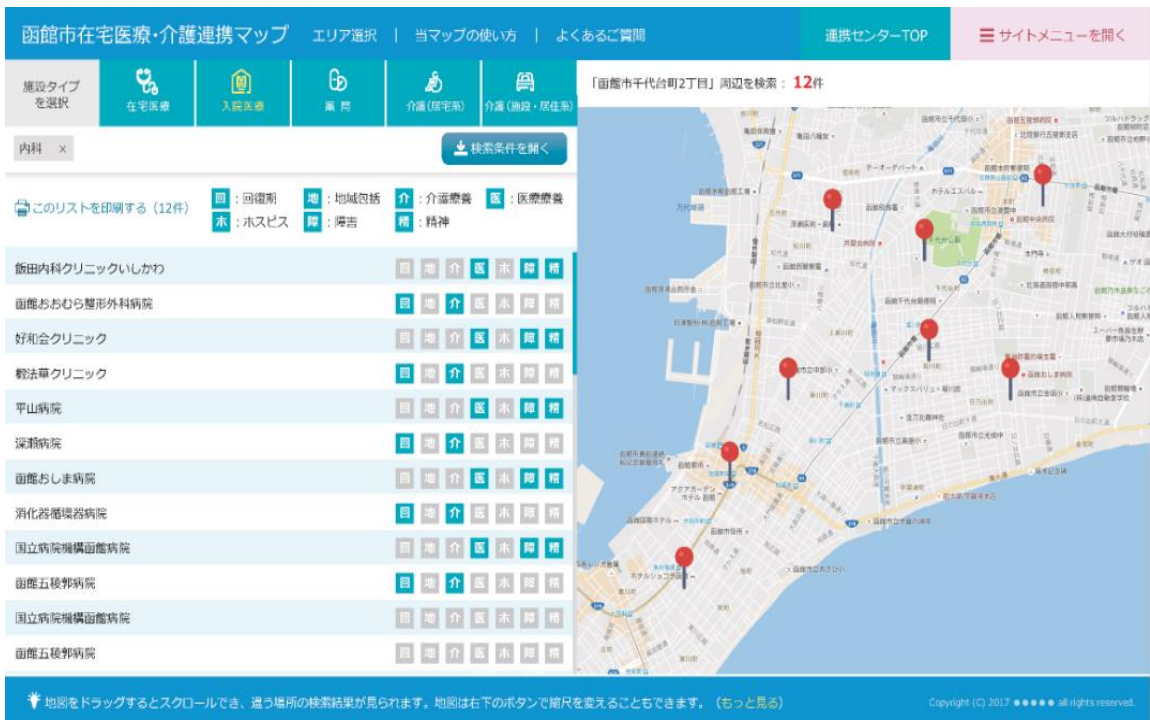
【TEL/FAX】

【マップイメージ図】

検索画面①



検索画面②



【 多職種研修会 当日スタッフ役割要領 】

○アイテム（センター前日搬入）

- ・受付用名簿 10 枚
（名簿係 2 枚＋予備 1 枚，懇親会係 2 枚＋予備 1 枚，案内・説明係 4 枚）
- ・配布用の名簿 270 枚
- ・受付用ボールペン 4 本
- ・蛍光ペン 4 本
- ・電卓 2 台
- ・領収書（懇親会出席者用）
- ・つり銭
- ・金庫（ホテルから借用）
- ・模造紙 30 枚
- ・付箋，マジック赤 30 本，マジック黒 30 本，ボールペン 243 本
- ・テープ 30 本（終了後に付箋を模造紙に張り付ける）
- ・ノートパソコン，レーザーポインター，IC レコーダー
- ・配布資料（次第，事例，パワポ，アンケート）270 セット
- ・名札（受付に準備分と席に準備分）
- ・アンケート回収箱

○受付の流れ

- ・名簿係（2 名×2 班）～包括①，イカ②，センター①（佐藤）
名前の聞き取り→名簿と突合・懇親会のチェック→参加者へ名簿を渡す
※懇親会参加者は懇親会係へ
- ・懇親会係（2 名×2 班）～MSW①，居宅①，センター②（川村，長谷川）
名前の聞き取り→3500 円受領・領収書渡す
※GW 不参加で懇親会出席者は，ここで名札と配布資料を渡し，会場後ろの
フリー席に案内する
- ・案内・説明係（2 名×2 班）～訪看②，訪リハ②
適宜，参加者を会場に誘導・説明する
- ・受付終了時点で，欠席者と懇親会の参加者の参加者数・合計金額を確認
（センター：川村，佐藤，長谷川）

*口頭で，クロークはないので室内のハンガーを使用して頂くよう説明する

*座席には，名札と資料をあらかじめ置いておく

○会場設営

- ・受付設営→MSW①, 居宅①, 包括①, イカ②
受付席 8 席確認, 表示貼り付け
受付用名簿 10 枚, 配布用名簿 270 枚, 受付用ボールペン 4 本, 蛍光ペン 4 本,
電卓 2 ヶ, 領収書, つり銭, 金庫, GW 不参加者名札と配布資料

・会場設営

GW の島の設営

- 老施協②, 柔道②, 函鍼連②, センター③, 訪看②, 訪リハ②, 相談員④
模造紙 1 枚, 付箋 50 枚程度ずつ, マジック各 2 本, ボールペン GW 人数分
テーブルにNo.スタンド (ホテルで準備)
名札, 封筒 (配布資料~次第, 事例, パワポ, 名簿, アンケート) 配置
GW の島の数と座席数の確認
GW 不参加者の座席数の確認

会場全体

- 中村副部長, 高畑, 京谷, 高柳
横断幕の確認
ステージ・司会・スクリーン・プロジェクターの配置確認
マイク 5 本
司会, 演者, 発表者席の確認, 表示貼り付け

○研修会中の動き

- 老施協②, 柔道②, 函鍼連②
着席スタート時点で, テーブルスタンド撤去
GW 時の発表時のマイク回し
写真撮影

○後片付け

- メンバー全員
アンケートの回収 (受付にアンケート回収箱準備)
懇親会欠席者の名札回収
模造紙は丸めて, 付箋をテープで張り付けて回収
その他消耗品の回収
会場内の忘れ物の確認と回収
懇親会会場への案内 (上着の持参声かけ)

○懇親会

- 立食____テーブル, ステージ, マイク位置の確認
上着は 3 階会場から持っていく (ハンガー確認)
参加者数の確定, 懇親会の内金支払
懇親会終了後, 名札回収

《 多職種研修会参加取りまとめ状況 》

1月18日現在

団体名	全体数	GW参加	懇親会参加
函館市医師会	10	5	8
一般社団法人 函館歯科医師会	15	14	15
一般社団法人 函館薬剤師会	9	9	8
公益社団法人 北海道看護協会 道南南支部	44	44	4
道南在宅ケア研究会	5	5	4
函館地域医療連携実務者協議会	10	7	10
一般社団法人 北海道ソーシャルワーカー協会 南支部	30	30	9
北海道柔道整復師会函館ブロック	11	10	11
函館鍼灸マッサージ師連携会	13	12	13
函館市居宅介護支援事業所連絡協議会	30	30	10
函館市地域包括支援センター連絡協議会	30	30	18
函館市訪問リハビリテーション連絡協議会	8	8	2
道南訪問看護ステーション連絡協議会	9	9	3
道南地区老人福祉施設協議会	28	28	9
行政（渡島総合振興局）	2	2	0
事務局（部会メンバー・センター職員他）	16	0	16
合計	270	243	140

6 関係職種を紹介

職 種	働いている場所・機関	仕事内容・役割
医師	病院・診療所 施設（入所・通所）	診察・治療・薬の処方などを行い、病気や健康状態の管理をします。かかりつけ医として、定期的な訪問診療や急な往診にも対応し、本人や家族主体の医療を提供します。
看護師	病院・診療所 施設（入所・通所） 訪問看護ステーション	医師の診察・治療を行う際の補助や、病気や怪我のケアをします。また、ご自宅に伺い健康状態の確認、必要な医療処置、入浴・排せつなどの日常生活の介助、栄養指導、リハビリ等もします。
保健師	保健所・市役所	地域住民に対して、健康増進や病気の予防・早期発見を目的に健康相談や保健指導などを行います。
歯科医師	病院・歯科医院	歯の治療・保健指導・健康管理などをします。かかりつけ歯科医として、寝たきりや施設に入所し歯科医院に通えない方のために、訪問して虫歯の治療だけではなく、入れ歯や口の中の状態をチェックする検診や口腔ケアをします。
歯科衛生士	病院・歯科医院 施設（入所・通所）	歯科医師の診察・治療を行う際の補助や、口の中の清掃・機能低下予防の指導など、口の中の健康を支え『食べる楽しみ』のお手伝いをします。
薬剤師	病院 調剤薬局	処方箋による調剤の他、処方された薬の説明や、残薬管理、飲み合わせ・副作用等の相談にのり助言します。また、ご自宅に薬を届けるだけではなく、服薬カレンダーのセットや、薬が飲みにくい場合の工夫・提案もします。
管理栄養士・栄養士	病院・診療所 施設（入所・通所）	医師の指示に基づき、本人の状態に合わせて栄養・食事に関する必要な情報や、食事療法に関する相談・指導をします。施設においては、食事計画等を作成し、栄養状態や身体機能の維持・向上を図ります。
リハビリスタッフ	病院・診療所 施設（入所・通所） 訪問リハビリ事業所 訪問看護ステーション	<p>【理学療法士】 病気や怪我などで身体に障害のある方や、障害の発生が予測される方に対して、様々な運動等により日常生活に必要な体力をつけたり、動作能力の改善を図ります。</p> <p>【作業療法士】 身体や精神に障害のある方や、障害の発生が予測される方に対して、様々な作業活動等により諸機能の回復・維持・開発を目指し、心と身体の機能改善を図ります。</p> <p>【言語聴覚士】 言語や音声・発音、聴覚、認知などの機能が損なわれて起こるコミュニケーション障害の方、食べたり飲み込んだりすることなどに困難がある摂食・嚥下障害の方や、障害の発生が予測される方に対して、テストや検査を実施し評価を行った上で、必要に応じ訓練・指導・助言等を行います。</p>

職 種	働いている場所・機関	仕事内容・役割
柔道整復師	病院・整骨院 施設（入所・通所）	骨折・脱臼・捻挫・打撲・肉ばなれなど、各種損傷に対して手術などの外科的方法ではなく、人間の持つ自然治癒力を最大限に発揮させて施術します。また、歩行が困難になった高齢者の自宅や施設に訪問し施術したり、在宅・施設・整骨院内の機能訓練指導員として、日常生活を営むために必要な機能改善や、現状能力の維持・減退防止のために訓練します。
鍼灸師・マッサージ師	病院・整骨院 鍼灸マッサージ院 施設（入所・通所）	はり師・きゅう師・あん摩マッサージ指圧師の3つの国家資格を合わせ持つ専門家で、現代医学的や伝統医学的な視点から鍼灸・マッサージ施術を行い、様々な疾病の治療や健康増進を促します。また、歩行が困難になった高齢者の自宅や施設に訪問し、医師の同意書により治療やリハビリを行います。
相談員	病院・診療所 施設（入所・通所）	<p>【医療相談員（医療ソーシャルワーカー）】 医療機関の中で、本人や家族の抱える経済的・心理的・社会的問題に関する相談にのり、安心して退院後の在宅生活が送れるようケアマネジャーや、他の専門職と連携して問題を解決・調整し、社会復帰の促進を図ります。</p> <p>【施設(生活)相談員】 施設の中で、本人や家族の抱える経済的・心理的・社会的問題に関する相談にのり、ケアマネジャーや、他の専門職と連携して問題を解決・調整し、生活の質の向上に努めます。</p>
地域包括支援センター職員	地域包括支援センター	<p>主な設置主体は市町村等各自治体で、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活が出来るよう、介護予防や日々の暮らしを様々な側面からサポートします。</p> <p>【社会福祉士】 消費者被害や高齢者虐待の防止など高齢者の権利を守るために関係機関との連携を図りながら相談・支援をします。</p> <p>【保健師】 高齢者が健康な生活を送れるようサポートし、介護予防のための助言・指導をします。</p> <p>【主任ケアマネジャー】 地域のケアマネジャーからの相談を受け、助言・指導を行うなどの後方支援を行う他、地域の社会資源の発掘や医療機関などを含めた様々な関係機関とネットワークを構築します。</p>
ケアマネジャー	居宅介護支援事業所 施設(入所)	介護保険利用者の方がその人らしく暮らすことが出来るよう、本人や家族の相談にのり、ケアプランを作成し、医療機関・介護サービス事業者や施設内の多職種との調整をします。
介護スタッフ	訪問介護事業所 施設（入所・通所）	高齢者や障害者の方がその人らしく暮らすことが出来るよう、介護計画等に沿って、食事・着替え・入浴などの介助、洗濯・買い物などの生活援助や、通院・リハビリの付添を行います。
福祉用具専門相談員	福祉用具貸与・販売事業所	介護保険を適用して福祉用具を利用する際に、選定や使い方などの相談・調整を行います。